

# 船舶事故調査報告書

平成28年2月25日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年6月21日 11時40分ごろ
発生場所	愛媛県上島町生名島南方沖 生名港沖防波堤北灯台から真方位213° 1,570m付近 (概位 北緯34° 15.2′ 東経133° 10.7′)
事故の概要	漁船金比羅丸は、北西進中、また、プレジャーボート恵比寿丸は、錨泊中、両船が衝突した。 金比羅丸は、船首部に擦過傷を生じた。
事故調査の経過	平成27年6月26日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 金比羅丸、1.0トン HS3-35547（漁船登録番号）、個人所有 第280-4067号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 恵比寿丸、5トン未満（長さ5.38m） 273-9607広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	A なし B 不明
損傷	A 船首部に擦過傷 B 不明
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	船長Aは、船尾甲板で船尾方を向いた姿勢で、釣れたたこをネットに入れる作業を行っており、約1～2分間前方を見ないで航行を続けた。 B船は、錨泊していた。
分析	A船は、船長Aが、漁獲物をネットに入れる作業をしていて前路の見張りを適切に行っていなかったことから、錨泊中のB船に気付かなかったものと考えられる。 B船は、錨泊中、A船と衝突したものと考えられるが、船長Bから情報が得られなかったため、衝突に至った状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、A船が北西進中、B船が錨泊中、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。

<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 常時適切な見張りを行うこと。</li></ul>
-----------	--